

# 海外研修生の受け入れ

玉那覇 靖

## 1. 概要

例年、OFCF（海外漁業協力財団、東京）が受け入れる南太平洋漁業技術者長期集団研修コースの研修生12名とOIF（沖縄県国際交流財団）が受け入れるソロモン漁業研修生2名、計14名の研修計画策定の支援や漁協への連絡等を行った。

また、琉球放送賀数朝夫記者の協力により英語版の「沖縄の赤土汚染」を作成してもらい研修で活用した。

## 2. 事例報告

南太平洋漁業技術者長期集団研修コースは、南太平洋7カ国（ミクロネシア、パラオ、ツバル、マーシャル、キリバス、ソロモン、P.N.G.）を対象国とし、同諸国の零細沿岸漁業のレベルアップを図る研修となっている。同研修を日本で実施する場合、海洋環境の類似した本県で例年実施され、成果をあげている。

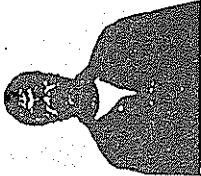


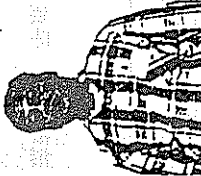







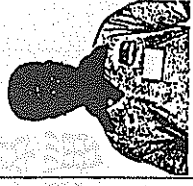
特に今回の研修では、琉球放送報道部 賀数朝夫記者の協力で英語版の「沖縄の赤土汚染」を作成してもらった。それを視聴後、各国の環境問題を各々報告し討論できたことは、研修生からも大変好評であった。しかし、問題点としては、各国から2名しか来れないため現地での普及に問題があるとのことであった。

## 沖縄県での技術研修実施計画

H 4. 10. 7

10月17日(土)	移動 (静岡県磐田市→沖縄県那覇市) 小牧空港経由 15:25発 17:50着 (ANA 307)	那覇泊
18日(日)	休日	
19日(月)	09:30~11:00 沖縄県農林水産部表敬訪問 沖縄の漁業一般について 13:30~16:00 沖縄の水産振興について	"
20日(火)	09:30~09:50 糸満市役所表敬、10:00~12:00 漁協訪問 漁業について 13:30~16:30 パヤオ漁法について	糸満
21日(水)	09:00~10:00 大城造船所 10:20~12:00 普及所訪問 13:30~16:30 試験場訪問 漁具漁法について	"
22日(木)	05:30~06:30 那覇魚市場見学 朝食後 伊江島へ移動 移動途中(13:00~14:00) 県栽培センター見学 15:00本部発 15:30伊江島着	伊江泊
23日(金)	09:00~12:00 伊江漁協訪問(伊江島の漁船・漁法について) 13:30~16:30 小型追込み網漁法について	"
24日(土)	午前 本部へ移動 10:00伊江島発 10:30本部着 午後 反省会・レポート作成 14:00~16:00	本部泊
25日(日)	午前 海洋博記念公園見学 午後自由行動	"
26日(月)	午前 八重山へ移動 10:50那覇発 11:45石垣着 (SWAL609) 13:30~14:00八重山支庁表敬 14:30~15:00石垣市表敬	石垣泊
27日(火)	09:00~12:00八重山漁協訪問 八重山の漁業について 13:30~14:30水産試験場訪問 15:00~16:00 崎枝クルマエビ養殖場	"
28日(水)	09:00~12:00 栽培センター訪問 午後 反省会・レポート作成 14:00~16:00	"
29日(木)	午前 宮古へ移動 10:50発 11:15着 13:30~14:00宮古支庁表敬 14:10~14:40平良市表敬 15:00~17:00平良漁協(一本釣漁具実習)	平良泊
30日(金)	10:00~10:30 伊良部町表敬 11:00~12:00 伊良部漁協訪問 13:30~15:00 伊良部漁協について (フェリー平良発09:20 伊良部発15:50 所要時間15分)	"
31日(土)	09:00~10:00 栽培漁業センター 10:30~12:00 池間漁協	"
11月1日(日)	移動 (宮古→大阪空港→京都) 13:40発 15:35着 (ANK 820)	京都泊

平成4年度 特別長期研修生（南太平洋漁業技術者研修コース）研修生名簿

<p>テボコ タラク MR. TEBOKO K. TARAU</p> <p>キリバス政府委員 調査員 1958年1月4日生 男 34才 キリバス共和国</p> 	<p>フニー イワン MR. FANNY IWAN</p> <p>ミクロネシア政府委員 漁業技術者 1965年7月14日生 男 27才 ミクロネシア連邦</p> 	<p>ローレンス MR. LAWRENCE ENEKEVU</p> <p>ソロモン政府委員 漁業担当 1965年5月21日生 男 27才 ソロモン諸島</p> 
<p>ヘルマン タハイ MR. HERMAN T. TAAIA</p> <p>キリバス公社委員 勤団マネージャー 1954年6月2日生 男 38才 キリバス共和国</p> 	<p>エリナス ノリアーノ MR. ELIAS NORIANO</p> <p>ミクロネシア政府委員 漁業技術者 1960年2月11日生 男 32才 ミクロネシア連邦</p> 	<p>マイケル セソモ MR. MICHAEL SESOMO</p> <p>ソロモン政府委員 漁業担当 1966年12月3日生 男 25才 ソロモン諸島</p> 
<p>モテラツグ アイセイ MR. MOTELANG AISEIA</p> <p>マーシャル政府委員 1957年6月7日生 男 35才 マーシャル諸島共和国</p> 	<p>イサリアス ヤノ MR. ISALIAS YANO</p> <p>パラオ政府委員 漁業担当 1949年8月4日生 男 43才 パラオ共和国</p> 	<p>ポウトア タオミア MR. POUTOA TAOMIA</p> <p>ツバル政府委員 漁業担当 1965年10月10日生 男 26才 ツバル</p> 
<p>ジョラウク ワタク MR. JORAUK WATAK</p> <p>マーシャル政府委員 1948年1月18日生 男 44才 マーシャル諸島共和国</p> 	<p>フルトソ テレエ MR. FRUTOSO TELLEI</p> <p>パラオ政府委員 漁業担当 1963年2月6日生 男 29才 パラオ共和国</p> 	<p>7ピネル テイリー MR. APINELU TILI</p> <p>ツバル政府委員 漁業担当 1958年11月11日生 男 33才 ツバル</p> 

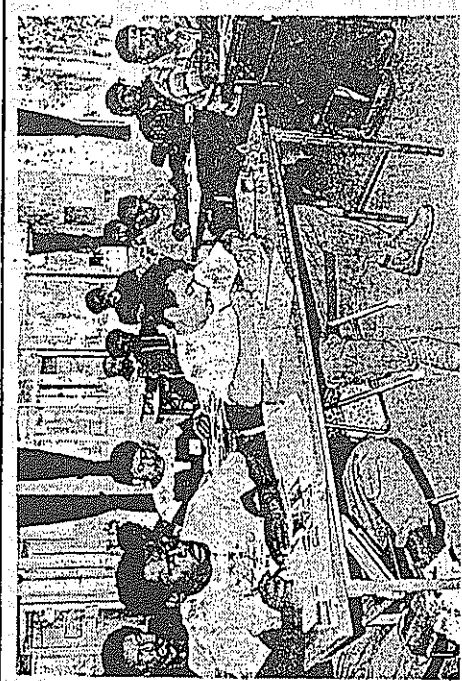
# 漁協、造船所を視察

## パラオなどから研修員12人

【糸満】海外漁業協力財団が受け入れた中平洋の六カ国、十二人の研修員は二十、二十一の両日、糸満市を訪れ、市袋所兼後援漁協や造船所、県水産改良所、県水産試験場での漁法や漁民が抱える問題点などの説明を受けた。訪れたのはキリバスやパラオ共和国などの政府や

会社職員。糸満漁協では、バヤ漁について、改良普及所では業務について説明を受けたほか、漁業権や日本の水産物の概況、沖縄での赤土流出による海洋汚染など、パラオを交えながら研修、受講後、自国と比較しながら質問した。意見交換した。一行は那覇、伊江島、八

重山、宮古を視察し、十一月一日に離神、京都に向かう予定。



県の漁業状況について説明を受ける研修員ら

琉球新報 平成4年10月25日(日) 1992年

糸満市

琉球新報 特別週刊版正(朝文)琉球新報 琉球新報